

柴北川プロジェクト通信 13号

平成22年10月17日(日)

1. 待ちに待った収穫祭！！

6月19日に人生初田植えを経験して、はや4カ月。福岡から車で向かう途中の車窓には、コンバインを使った稲刈りがあちらこちらで行われている、まさしく秋風景がありました。車には、木寺さん、森脇さん、濱田さん、前田さん、武市さんとお母上様、それと私の7名で、さあ、一路「別府温泉」へ。ん？そうです、今回は、特別に、前日入りを別府温泉どまりとして、ちょっと稲刈りに向けて英気を養っておこうという事務局方の心憎いばかりのスケジュール設定。お宿も、渡邊さんのご親戚が経営されている別府鉄輪(かたり)のみゆき屋さんです。宿に到着し、まずは、温泉につかり、……………(事情により以下省略)……………。



さて、翌日、天気も秋晴れ。格好の稲刈り日和！！

途中少しばかり寄り道しながら、今度は間違いなく、一路、長谷地区の我が稲田へ。

現地でも、玉田さん、幸野さん、波多野さんと合流すると、あれ！半分くらい稲刈りが終わっている！

遅刻したかと思いましたが、これは、地元の方が、作業時間を考慮していただいて、少し、前刈りされたものでした。それでも、自分たちが植えた稲が黄金色に輝いているということで、これを素直な気持ちで表現すると、「たった4カ月でお米ができちゃうのだ」という感動です。前回に長谷地区にお邪魔した時に、地元の方より、草刈りなどの田植えの後の手入れが大変であることは、お聞きしているので、稲が勝手にここまで大きくなっているのではないことは重々承知はしているのですが、やっぱり、「たった4カ月でお米ができちゃうのだ」という感動の気持ちを抱いたのはまちがいないところです。



会場には、地元の方、田植えのときも参加した小学生・中学生の子供たちもいて、ちょっとした賑わいを呈していました。

さて、現場で、大塚会長のあいさつと、稲刈りのレクチャーを受け、新品の鎌を渡され、さあ、稲刈りがはじまりました。6、7本程度右手で親指を回しかき集め、鎌でサクッと刈り取り、稲の紐でクルクルと束ね、ホイと掛けていくのですが、最初は、なかなか「サクッ・クルクル・ホイ」のリズムが取れず、「サ、サ、ササク、クルクルパラリ(も一度)クルクル、ヨイコラドッコウショノホイ」のような感じで、なかなか。しかし、15分もすると、なんとか調子よくなり地元の方から「そうその調子！」などとおだてられ、結局、予定の2時間の半分の1時間足らずで刈り終えてしまいました。





どうです
見事な稲刈り後の風景でしょ！

1 時間ほど早く稲刈りが終え、まだ 11 時過ぎという時間なのですが、久方ぶりのまともな労働をしたこともあり、昼食会場でもある体育館へそうそうに向かいました。

体育館では、地元の方手づくりのお弁当（おにぎりやおかずの数々）にくわえ、地域特産品のカボス、手作りこんにゃく、栗、野菜等の販売がおこなわれていましたが、なぜか博多ラーメンの販売が・・・。放送で、これらの販売の代金が、東京で開催される「いい川、いい川づくりワークショップ in 東京」に参加する長谷探検隊の子供たちの遠征費用捻出のための販売ということで、共助研のメンバーも、次から次に購入されて、あっという間にシソの葉を残し、品切れ状態になっていました。



さて、午後の部は、「黒松神楽演武」、「いい川、いい川づくりワークショップ」発表リハーサル、「思い出 NAVI・柴北川バージョン」です。

会場は、地元の方も多数参加され、結構なにぎわいです。

黒松神楽の演目は、「剣」と「五穀舞」。「剣」は、太刀の威力により妖怪を退治する舞で、子供たちもまじり、なかなか勇壮なものでした。「五穀舞」はその名の通り五穀豊穣に感謝する舞で、最後に、子供たちへお菓子を舞台からばらまくもので、舞が佳境に達するころ、子供たちが舞台の前にまで目をキラキラさせ近寄ってきて、お菓子がばらまかれると一目散に取りっこしてました。



「剣」の舞



「五穀舞」の舞

「いい川、いい川づくりワークショップ」発表リハーサルは、10月22日～24日に東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されるかわづくりのイベントで、今年で3回目ということですが、これに向け、「長谷探検隊」の子ども達が発表することになり、そのリハーサルです。なんでも、全国から50チームが参加し、各チームわずか3分間プレゼンテーションという過酷なコンテスト。柴北川を愛する会の活動を知るにつれて、自分達も地域のことを知りたい、地域のために何かしたい、地域の一員として参加したいという気持ちから子ども達だけで活動する「長谷探検隊」が発足したことや、地域の歴史や文化財を勉強したり、地域のお年寄りから淵の名前のいわれや当時の水辺の様子などの聞き取り、実際に川へ入り、川遊びを楽しみながら川の様子を探るなど、子供達を中心に調査・活動・広報を行っていることをしっかりプレゼンテーションする予定です。また、この時点では、発表のパネルもできておらず、少し、不慣れな印象がありましたが、大塚会長はじめ地元の方や幸野さんからアドバイスを受けていました。(結果的に、エントリー 808 **地域再発見・長谷探検隊**「アリの目、ゾウの目、キリンの目 笑顔で地域を自慢しま賞」ということで、準グランプリを獲得するという輝かしい成績を勝ち取ることになるのですが、それはまだ後の話。でも、本当におめでとうございます、長谷探検隊の子供たちのみなさん)



最後に、共助研からの出し物? 「思い出 NAVI・柴北川バージョン」です。ご存知の通り、夢アイデアコンテストから生まれたもので、今回、福岡市天神や博多駅でデモをやることに先駆けての発表です。事前に集めた懐かしい写真をみんなで見ようということで、長谷地区の懐かしい風景に加え、共助研メンバーからの提供で昭和30年代の子供たちの風景がスクリーンへ映し出されました。発表した木寺さんからは、「もっとスクリーンの近くに集まってもらえば良かった」という感想もありましたが、「長谷探検隊」が今の長谷地区を探検することで地域をより理解しようという試みなので、この「思い出 NAVI・柴北川バージョン」が、古い写真から、長谷地域の歴史を感じ取り、地域をより理解しようという同じ流れにつながるのではなど、今後に展開するのではないかと期待されます。あと、地元の方々が感心していたのが、このバックに流れていた篠笛の音色。木寺さんの弟さん? (お兄さんでしたっけ) の演奏されたもので、神楽の笛を吹かれる地元の三浦さんが、聞きいっておられたのが、笛をされる方同士の通じる何かがあるのだろうと印象的でした。



今回は、10月2日(土)の共助研の拡大幹事会で話された「缶蹴り等の昔の遊びの紹介・実施」は、次の機会にしようということになり、行われませんでした。が、「昔の遊び」に関し、木寺さんよ

り、熊本県在住のグラフィックデザイナーの「原賀隆一さん」という方が自費出版されている本（今回自費出版賞受賞）の紹介がありました。

さて、次に待ち遠しいのは、刈り取った稲からできる新米を味わうことで、これも、もう間もなく実現することになるようです。最初の一杯は、ほかほかの御飯だけ、2杯目は、・・・・。

とにもかくにも、この長谷地区における共助研活動を通じて、生きていることの面白さのようなものをいくつも感じ取ることができるようになったこと、これは、勝手ながら私たち都市という空間の中で生活するものにとって大きな収穫ではないでしょうか。これまでの活動を通して、長谷の人たちから、私たちが助けられているという「共助」のイメージがどんどんと大きくなってきている、そんな気がする毎日です。さて、共助の相手さんである長谷の方々にも、私たちと同様に、この活動に参加することで、なにか良かったことが一つでもあるよと言ってもらえると、さらに嬉しい気持ちが増すのですが、いかがなものでしょう、長谷の皆様方。

おわり

【PRのページ】ご予約、ご購入、よろしくお願ひします。